

令和 5 年 6 月 30 日

課 名 地域政策局広島サミット推進チーム

担当者 広島サミット連携推進担当監 矢島

電 話 082-209-8502

G 7 広島サミットに係る県民会議の主な取組について

1 趣旨・目的

広島サミット県民会議では、「安全・安心で円滑なサミット開催支援」「広島ならではのおもてなし」「平和の発信」「広島の魅力の発信」「ポストサミットを見据えた若者の参画」の5つの柱により取り組んできたところであり、その主な取組について報告する。

2 現状・背景

令和 4 年 5 月 23 日 岸田内閣総理大臣が広島での開催を発表

7 月 21 日 官民一体の推進組織「広島サミット県民会議」の設立

令和 5 年 5 月 19 日～21 日 G 7 広島サミット開催

7 月 5 日 県民会議第 5 回総会の開催

3 県民会議の主な取組

(1) 安全・安心で円滑なサミットの開催支援

ア 首脳等プログラムの実施支援

サミット開催期間中の平和記念公園の立入制限等について、全国の旅行代理店等への周知に加え、旅行の出発点等(東京駅等)でのポスター掲示等により旅行者に周知するとともに、当日の首脳等による平和プログラムについて、献花の介添えに係る調整、記念植樹の手配など、実施の支援を行った。



G 7 首脳による芳名録記帳



G 7 首脳による原爆死没者慰霊碑献花

<参考：G 7 首脳の芳名録へのメッセージ（岸田内閣総理大臣以外は日本語仮訳）>

○岸田内閣総理大臣

歴史に残る G 7 サミットの機会に議長として各国首脳と共に「核兵器のない世界」をめざすためにここに集う。

○マクロン大統領（フランス）

感情と共感の念をもって広島で犠牲となった方々を追悼する責務に貢献し、平和のために行動することだけが、私たちに課せられた使命です。

○バイデン大統領（米国）

この資料館で語られる物語が、平和な未来を築くことへの私たち全員の義務を思い出させてくれますように。世界から核兵器を最終的に、そして、永久になくせる日に向けて、共に進んでいきましょう。信念を貫きましょう。

○トルドー首相（カナダ）

多数の犠牲になった命、被爆者の声にならない悲嘆、広島と長崎の人々の計り知れない苦悩に、カナダは厳粛なる弔慰と敬意を表します。貴方の体験は我々の心に永遠に刻まれることでしょう。

○ショルツ首相（ドイツ）

この場所は、想像を絶する苦しみを思い起こさせる。私たちは今日ここでパートナーたちとともに、この上なく強い決意で平和と自由を守っていくとの約束を新たにします。核の戦争は決して再び繰り返されてはならない。

○メローニ首相（イタリア）

本日、少し立ち止まり、祈りを捧げましょう。本日、闇が凌駕するものは何もないということをお覚悟しておきましょう。本日、過去を思い起こして、希望に満ちた未来を共に描きましょう。

○スナク首相（英国）

シェイクスピアは、「悲しみを言葉に出せ」と説いている。しかし、原爆の閃光に照らされ、言葉は通じない。広島と長崎の人々の恐怖と苦しみは、どんな言葉を用いても言い表すことができない。しかし、私たちが、心と魂を込めて言えることは、繰り返さないということだ。

○ミシェル欧州理事会議長（EU）

80年近く前、この地は大いなる悲劇に見舞われました。このことは、われわれG7が実際何を守ろうとしているのか、なぜそれを守りたいのか、改めて思い起こさせます。それは、平和と自由。なぜならば、それらは人類が最も渴望するものだからです。

○フォン・デア・ライエン欧州委員会委員長（EU）

広島で起きたことは、今なお人類を苦しめています。これは戦争がもたらす重い代償と平和を守り堅持するというわれわれの終わりなき義務をはっきりと思い起こさせるものです。

イ 元宇品・宮島に係る地元調整

サミットの主会場のホテル周辺の元宇品地区は、立入制限等警備上の制約を受けることから、地元町内会と協議しながら、住民説明会や情報提供を適時行うとともに、外務省が発行する住民・事業者用識別証・車両証の申請登録や配布を行った。

〔識別証発給数〕 3, 347枚 〔車両証発給数〕 2, 170枚

また、首脳等による宮島訪問に当たり、宮島は入島制限等警備上の制約を受けることから、島内への影響について地元住民や観光関連事業者を対象とした説明会を行うとともに、入島制限を知らずに宮島口まで来訪する観光客等を極力少なくするために、アと同様の手法に加えて、WEB上のデジタルマーケティングの手法を活用することにより、旅行者等に対する注意喚起を行った。

ウ インフォメーションカウンターの設置

サミット関係者（国内外の報道関係者、政府関係者、警備関係者等）が利用する交通結節点等にインフォメーションカウンターを設置し、学生ボランティアによる交通案内・観光案内等を行った。

① 期 間 令和5年5月16日～22日

② 開設場所 広島空港、JR広島駅、国際メディアセンター（広島県立総合体育館）

〔学生ボランティア数〕 延べ100名 〔案内件数〕 1, 373件



広島空港



広島駅

エ 宿泊予約センター及び弁当供給センターの設置

県民会議が公認する「G7広島サミット宿泊予約センター」を設置し、サミット関係者（各国政府関係者、報道関係者、警備関係者等）の客室を確保した。

また、「G7広島サミット弁当供給センター」を設置し、県内各地に配置される警備・消防・医療・現地スタッフ等に対し、安全で安心な食事を大量に継続して供給できる体制を確保した。

〔宿泊予約センター取扱件数〕約38万泊（1日あたりの最大値：約2万6千泊）

〔弁当供給センター取扱件数〕約39万2千食（1日あたりの最大値：約3万6千食）

※いずれも速報値



宿泊予約センター



供給弁当の例

オ 交通総量抑制対策及び交通規制情報の周知

各国首脳等の移動に伴い交通規制が実施されることから、県民会議の構成団体等において、マイカー利用の自粛や業務用車両の運行調整等に取り組むとともに、様々な媒体を活用して交通総量抑制への協力を呼び掛けた。また、県警察が実施する交通規制の周知に取り組んだ。

○県内の高速道路及び広島市中心部の一般道路の交通量

〔目標〕50%削減 → 〔実績〕53.8%削減（目標達成）



バス停での周知



学校関係者への交通規制に係る説明会

(2) 広島ならではのおもてなし

ア 県民会議ロゴの制作

県民会議の活動をPRするとともに、行政のみならず、企業・県民が一体となってサミット開催を盛り上げ、おもてなし機運を高めていくため、広島市立基町高等学校の協力を得て県民会議の公式ロゴを制作した。



県民会議ロゴ



県民会議ロゴ発表の様子

イ カウントダウンボード等の制作・設置

① カウントダウンボード等の制作

県内の主要な交通結節点等にカウントダウンボードやデジタルサイネージを設置した。カウントダウンボードについては、県内のデザインや工業技術を学ぶ高校7校の協力を得て制作した。

区分	期間	設置場所
カウントダウンボード	令和4年10月31日～サミット終了まで	広島空港、JR広島駅、広島バスセンターなど8か所
デジタルサイネージ		県庁、広島市役所など15か所

② 電車・バス等へのラッピング

路面電車及び県内を運行するバス、タクシー、旅客船のラッピングを実施した。路面電車及びバスのラッピングデザインについては、県内の高校など13校の協力を得て制作した。

〔対象車両数〕

路面電車（1台）、バス（7台）、タクシー（200台）、旅客船（38隻）

③ 懸垂幕・歓迎バナー等の設置

地元の歓迎機運を高めるための大型看板・懸垂幕や参加国首脳や関係者へ歓迎の意を表す歓迎バナーを設置した。

区分	期間	設置場所
大型看板	令和5年1月16日～サミット終了まで	県庁前
懸垂幕	令和5年1月23日～サミット終了まで	県庁、広島市役所など
歓迎バナー	令和5年3月23日～サミット終了まで	平和大通り、首脳会議場付近など



広島バスセンターに設置したカウントダウンボード



バスへのラッピング

ウ サミットフォーラム等の開催

① サミットフォーラム

サミット開催 150 日前の節目事業として、県民・市民がサミットの趣旨や広島開催の意義、開催の効果等について理解を深めるため、フォーラムを開催した。

(7) 開催日 令和4年12月6日

(4) 場所 広島国際会議場「フェニックスホール」

〔参加者数〕約1,300人

② スペシャルスプリング

サミット開催 50 日前を基軸に、サミットの歓迎機運を高めるため、複数のイベントを実施した。

区分	開催日	場所	実績
「広島みなとフェスタ 2023」ブース出展&ステージPR	3月18日 ・19日	広島みなと公園	ブース来場 1,241人
「G7 ウェルカムコンサート & 物産展」	3月21日	シャレオ中央広場	ブース来場 136人
カープフェスティバル「鯉祭り」ブース出展&番組内PR	3月26日	マツダスタジアム	ブース来場 423人
GATEPARK FESTA ステージPR	3月31日 ・4月2日	ひろしまゲートパークプラザ	ステージ観覧 850人
県民会議期間限定ショップ「UCHIRA」	3月31日～ 5月7日	シメントひろしま	来場 40,292人
#HIROSHIMA ミライバトン	5月4日	広島広域公園	来場 11,774人



サミットフォーラムでの池上彰氏基調講演



県民会議期間限定ショップ「UCHIRA」

エ 花を活用したおもてなしの実施

事業者や地域団体など、県民・市民の協力も得て、県内の花壇等にガーデンピックを設置するとともに、平和記念公園に歓迎ボードを設置した。

内容	期間	場所	実績
オリジナル ガーデンピック	令和4年12月9日 ～サミット終了まで	県内各所の花壇・ プランター等	小サイズ：3,045個 大サイズ：2,540個
花を活用した 歓迎ボード	令和5年3月29日 ～サミット終了まで	平和記念公園内	広島市内の27小学校 に花を育成してもらい、 植え替えを実施



オリジナルガーデンピック



小学生が育てた花を活用した歓迎ボード

オ クリーンアップ活動の促進

県民会議の構成団体や県内の企業・団体等に自主的な清掃活動呼び掛けるとともに、その取組をホームページ等で発信した。

また、県及び広島市が実施する清掃活動と連携し、参加者へノベルティを提供した。

区分	期間	実績
クリーンアップ活動	令和5年4月24日～ 令和5年5月17日	218企業・団体等
行政事業との連携 (ノベルティの提供)	令和5年2月12日～ サミット終了まで	参加者：11,479人

※実績は令和5年6月12日現在



広島商工会議所と連携して実施した清掃活動



ノベルティ

カ サミットを応援する取組・協賛・寄附金の募集

G7広島サミット開催に向けて、全県的な取組を展開し、オール広島でのおもてなし・歓迎機運を醸成するため、サミットを応援する取組及び県民会議事業等への協賛等を募集した。

〔応援する取組〕 2,045件 〔協賛〕 69件 〔寄附金〕 1,498万6千円



G7広島サミットデザインマンホールの製作



県民会議事業への協賛

(3) 平和の発信

ア サミットフォーラム（平和発信）の開催

中高生が自分事として平和への興味関心を深め、未来に向けて戦争や平和について考えることを目的として、多くの被爆者の体験に耳を傾けてきた女優の綾瀬はるかさん、被爆者、県内高校生を登壇者に迎えた、G7広島サミットユースフォーラムを開催した。

- ① 開催日 令和5年2月26日
 - ② 場所 広島国際会議場「フェニックスホール」
- 〔参加者数〕 1,075人（1回目557人、2回目518人）



イベント案内



フォーラムの様子

イ 海外メディアの招へい

サミット開催地として広島に注目が集まる機会を捉え、サミット参加国の主要紙の記者を招へいし、平和関連の取材やインタビュー等を行っていただくことで、被爆の実相や復興の歴史、核兵器のない平和な世界への願いを世界に発信した。

- ① 期間 令和5年3月～5月
- ② 招へい数 4社（米国、英国、フランス及びドイツの4か国）



フランス「ル・モンド」紙

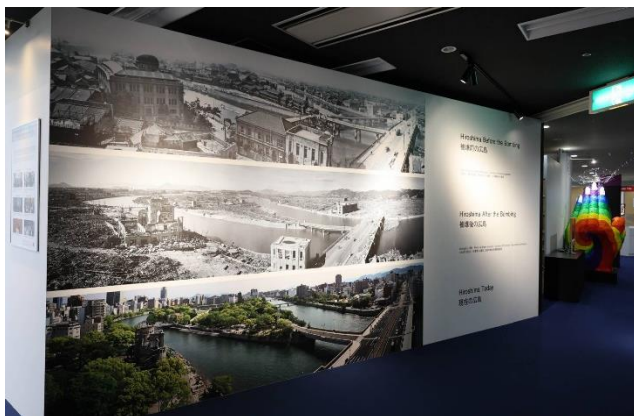


英国「ガーディアン」紙

ウ 国際メディアセンターでの平和発信

サミットに関連して広島を訪れる報道関係者を通じて、被爆の実相や被爆地の平和への思いを国内外に広く発信するため、国際メディアセンターに設置された広島情報センターにおいて、平和記念資料館所蔵の被爆資料等を展示するとともに、復興の歴史や現在の平和への取組などを紹介した。

また、より深く被爆の実相等を理解していただくため、サミット期間中に被爆体験講話を計3回実施した。



展示の様子



被爆体験講話

エ 被爆楽器を活用した演奏会の開催

言語の壁を越えて思いを伝えることのできる音楽を、原爆の惨禍をくぐりぬけた被爆楽器で演奏することで、平和な世界に向けた願いを発信した。

- ① G7各国在京大使館による視察時の歓迎レセプションにおいて、広島交響楽団メンバーによる被爆ヴァイオリンを活用した弦楽四重奏の演奏を行った。
- ② サミット50日前イベントの一環として開催した「G7サミットウェルカムコンサート&物産展」において、被爆ピアノである「明子さんのピアノ」を使用した、学生などによる演奏を行うとともに、「明子さんのピアノ」の歴史を解説するパネルの展示を行った。



歓迎レセプション



G7サミットウェルカムコンサート

(4) 広島の魅力の発信

ア プレスツアーの実施

サミットの開催地として世界から広島に注目が集まる機会を活用し、在日外国メディアを対象としたプレスツアーを3回実施し、海外向けの報道を通して、広島の魅力や平和のメッセージを世界へ発信した。

区分	期間	主な内容	行先	参加者
第1回	令和5年2月7日 ～2月8日	産業、環境	スピングルカンパニー（府中市）、今田酒造（東広島市）など	10社 （8か国・地域）
第2回	令和5年3月24日 ～3月25日	食、文化	岩崎農園（大崎上島町）、神楽鑑賞など	7社 （6か国・地域）
第3回 ※外務省との共催	令和5年4月25日 ～4月26日	平和	平和記念資料館、おりづるタワーなど	11社 （8か国・地域）



第1回プレスツアーの様子



第3回プレスツアーの様子

イ 広島情報センターの設置

報道関係者を通じて広島県の魅力を国内外にPRし、国内外での認知度向上を図るため、国際メディアセンター（広島県立総合体育館）内に、広島の情報発信する広島情報センターを設置した。

① 開設期間

令和5年5月18日～22日（18日及び22日は展示のみ）

② 場所・内容

区分	内容
メイン会場 （本館地下1階通路）	「伝統工芸」「技術」「心」「環境」「食と酒」の5つのテーマによる実物展示、大型ディスプレイ等を活用した動画放映、試食・試飲、体験
スポーツ情報センター	被爆の実相等に触れるための平和展示ブース
大アリーナ1階及び地下1階の回廊	23市町のPR展示、「心」「平和」をテーマにした大型モニュメントの設置
ステージ（ひろしまゲートパークプラザ大屋根ひろば）	広島神楽や書道（大書）パフォーマンス、市町による観光PRなど

〔来場者数〕延べ50,327名（うち外国人4,967名） ※速報値

〔試食・試飲提供数〕和牛、牡蠣、お好み焼等 6,409食
お菓子（もみじ饅頭等） 3,292個
日本酒、ワイン等 3,758杯
サイダー、牛乳等 2,596本



広島情報センター正面



試食・試飲コーナーでのお酒の試飲

ウ G7広島サミットPR動画等の制作

G7サミットの広島開催及び意義を周知するため、サミットPR動画を制作し、放映した。また、広島を訪れる方へおもてなしの心を伝えるとともに、市民・県民の達成感や歓迎機運を醸成するため、県民・市民の取組のメイキング映像を収めた動画を制作し、放映した。

区分	放映場所
G7広島サミットPR動画	デジタルサイネージ、国際メディアセンター内ビジョンなど
G7広島サミットおもてなしメイキング動画	各種HPやSNS、レセプション、国際メディアセンター内ビジョンなど



G7広島サミットPR動画



おもてなしメイキング動画

エ 海外メディア等に向けた飲食店ガイドの制作

海外の報道関係者や全国から派遣される警察官等国内のサミット関係者に対し、安心して広島ならではの食などを楽める中心市街地の飲食店の情報や観光情報を掲載した2種類のガイドを作成し、配布した。

〔配布方法〕

英語：国際メディアセンターでの配布、海外メディア向けの宿泊施設等で配架

日本語：サミット関係者の記念品に同封



飲食店ガイド（英語）



警察官への記念品配布

(5) ポストサミット（若者の参画）

ア G7広島サミットジュニア会議の開催

未来を担う若者が、国際的な諸課題やその解決に向けた取組などについて理解を深めるとともに、困難な課題にもチャレンジ精神を持って取り組むようになる契機とするため、G7広島サミットジュニア会議を開催した。

期間	取組内容
令和5年3月27日 ～3月30日 ※事前のオンラインプログラム等を除く	広島県及び日本在住のG7各国出身の高校生24名が、県内各地での様々なプログラムに参加するとともに、「平和」「持続可能性」「多様性」の3つのテーマについて議論を重ね、その結果を成果文書にまとめた。 また、開催後、参加者代表の6名が岸田内閣総理大臣を訪問し、成果文書を手交した。



成果文書発表会



岸田内閣総理大臣への成果文書手交

イ サミット塾の実施

今後の広島の担い手となる若者のG7サミットに関する理解を深めるとともに、国際感覚やチャレンジ精神を涵養するため、外務省との共催により、国際舞台で活躍する現役の外交官によるG7サミットや国際問題をテーマにしたサミット塾を実施した。

実施時期 令和5年1月～3月

〔実施校〕23校（対面21校、オンライン2校） 〔参加人数〕約5,000人

※ 中学校11校、高等学校7校、中・高等学校3校、高等専門学校2校



広島県立安芸南高校



広島市立舟入高校

ウ 若者の参画機会の確保

サミットに関連する様々な行事・取組に、未来を担う若者が関わる機会を提供した。

- ① 広島サミット協力大学協議会等からの推薦に基づき、県内20大学及び1高専から、学生ボランティアを決定し、学生が様々な活動に参加した。

〔学生ボランティア人数〕おもてなしボランティア：72人

通訳ボランティア：51人

〔活動延べ人数〕406人

- ② 広島市内の小・中・高等学校の生徒が各国首脳等による原爆死没者慰霊碑への参拝・献花及び記念植樹の際に介添えを行った。



学生ボランティア結団式



パートナーズプログラムでの活動

エ サミット関係施設の見学実施

国際メディアセンターに設置された日本政府の広報展示や広島情報センター等をサミット終了後に一般公開する「アフターサミット見学会」を、外務省との共催で行い、次世代を担う県内小・中・高等学校生や、地元の住民、事業者、関係者、一般公募の招待者などが来場した。

- ① 期間 令和5年5月24日～27日

- ② 対象 県内学校の児童・生徒、地元関係者、県内住民等

〔来場者数〕1,333人



見学の様子



見学の様子

4 今後の取組等について

今後、県民会議では、サミット開催に伴う経済波及効果を算定するほか、G7広島サミットの記録・記憶を後世に引き継ぐため、記録誌を制作する。

また、首脳会議で実際に使用された円卓やサミット関連のパネル等を展示するG7広島サミット記念コーナー（仮称）を設置する予定。

5 その他（関連情報等）

(1) 予 算

県民会議 累計予算 761,000 千円（うち、県負担金 380,500 千円）

(2) ホームページ

県民会議 <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hiroshima-summit/>

外務省（G 7 HIROSHIMA2023） <https://www.g7hiroshima.go.jp>